

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171400118		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみたけ		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町井尻65番地の1		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	平成23年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171400118&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、自然豊かな山や田畑の中で、併設される特別養護老人ホーム、養護老人ホームと共に建立している。木造平屋建ての木調を生かした落ち着いた雰囲気の内装である。地域のボランティアも定着しており、馴染みの顔となっている。利用者同士も、よく声を掛け合い普段の生活に張り合いがみられる。多種多様な福祉、医療サービスの支援を母体法人からうけることができ、豊かな行事参加が気分転換や体験になっている。防災体制も整い、ハード面、ソフト面共に安心して暮らせることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同法人の運営する特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・デイサービスに併設されている。利用者は、併設施設へ日常的に行き来し、馴染みの人やボランティア、地域の人々と交流している。また、ホームの主催で、週に1回開催される喫茶店では、身支度を整えた利用者が接客に勤め、笑顔で来客を迎えるなど、生活に張りが持てるように支援している。母体は、総合福祉法人であり、その特性を活かし、福祉・医療の支援体制が充実しており、重度化・終末期対応にも不安がなく、本人と家族の安心を得ている。利用者は、地域の人々と親しく関わりながら、豊かな気分で張り合いのある日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を基に運営している。事業所独自の本年度の目標は「生活の活性化」、グループホーム内の目標は「少しずつ歩み寄り繋げる輪が絆を深める」である。支援内容について理念や目標に添った考え方で実践を行うようにしている。	地域のなかで、当たり前前に安心して暮らせるように、5つの理念を掲げている。毎週月曜日の朝礼で復唱し、毎朝の申し送りで、理念に基づいたミーティングが行われている。日々の暮らし方を自分で選びながら、張り合いが持てるケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加、散歩や公共施設への外出などの機会を積極的に行っている。地域交流として老人憩いの家でのボランティア交流会に参加し在宅高齢者との交流を行っている。グループホーム利用者ならではの力を発揮し歌や体操を披露することがある。	地域の老人サロンへ定期的に出向き、在宅高齢者と交流している。郵便局員との絵手紙による交流や、地元の理髪ボランティアも定期的に訪れている。地域の行事には積極的に参加し、交流が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に交流するボランティアや地域の方と関係を構築するなかで、その都度関わり方や特徴を理解していただくように職員が努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民、行政、家族等の参加により2ヶ月に1回開催して利用者の状況やグループホームの取り組みを報告している。その中で意見を伺ったり、地域の情報を参考にしている。	会議は、住民代表・行政・家族代表などの参加により、2ヶ月に1回、開催している。事業報告に対する検討や、土砂災害、熱中症などのテーマで意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	御嵩町在宅支援センターは、併設の事業所内にあり日頃から当ホームの状況や取り組みを会議などで報告している。御嵩町包活支援センターは役場であり、施設職員の出向により情報の共有を行えるようになってきている。	運営推進会議に参加している行政担当者に、ホームの実情を伝え、良好な関係ができていく。行政からも、町運営の健康予防館利用の案内や、地域の福祉課題で話し合う等、地域全体の福祉向上に向けて、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人には「身体拘束マニュアル」があり、研修等に参加し職員に周知している。玄関やテラス等の施錠は、夜勤等が安全が確保できない時以外は、常に自由に出入りできるように開放している。	法人全体で、身体拘束についての研修を行い、拘束の弊害を常に認識し、拘束のないケアを行っている。玄関は常に開錠され、併設のデイサービスや養護老人ホームへ自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の各研修や勉強会、居宅介護支援事業等主催の研修会に参加し、職員に周知している。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、岐阜県が主催する介護支援専門員研修、認知症介護実践リーダー研修へ参加、職員は法人内の各研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の取り交わしについては、事前面接さらに入所時にも十分な説明を行っている。家族会やケアプラン説明時にも説明を行っている。その都度、利用者、家族からの声を伺い理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記、家族からの意見苦情については苦情受付簿で職員、上司に報告している。法人内独自のアンケート調査を実施し、改善策を提示、実行している。職員間は申し送りノート、業務日誌、個別ケース記録に記載し必要に応じては職員会議で検討している。	家族の訪問時や家族会、アンケート調査で意見を把握するよう努めている。なかでも、ケアの実施方法についての要望等が多く、意見・要望は、職員会議で検討し、速やかに改善策を講じ、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、エリア長、管理者、職員が出席、意見交換を行いホームの運営に活かしている。普段から職員の意見や提案を検討するようにし管理者独断の決定事項は避けている。	管理者は、月1回の職員会議で、職員の意見を聞く機会にしている。職員からは、ケアの気づきや、職員の健康管理など幅広く意見を収集し、意見・提案等は、法人の向上委員会で対応策を決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリア長、管理者は職員の個人目標を把握し常に職員の努力、実績、勤務状況の確認に努め、個々の健康、環境にも目を向けた上で、向上心や勤労を奨励している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、修得段階に応じてコースを設定している。研修などの取り組みには、勤務表の調整を行い参加を可能にするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人にはグループホームが7箇所あり、2ヶ月に1回のサービス向上委員会を開催し、サービス提供等の情報交換や学習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者には、担当ケアマネージャーからの情報を基に直接本人、家族から情報収集に努めている。前サービス事業者からの情報提供も頂き、安心、安全確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人からの情報の確認や家族にしかわからない状況等を機会あるごとに伺うように努めている。得られた情報を支援内容に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の立場に立ち近況の把握と傾聴により課題を見極め、話し合う機会を持つようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の情報を把握し、状況観察に心掛けている。生活場面で出来ることを維持向上し、出来ないことをさりげなく援助するようにしている。利用者自身が役割を持つこと、やりがいの発見ができる様に生活支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス提供が一方向的にならないように外出、外泊、面会の制限を作らず、緊急時以外の受診の対応、家族会、行事参加の案内近況報告書の利用にて利用者と家族が希薄な関係にならないように連絡調整を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスを利用する知人との交流、グループホーム主催の週1回の喫茶店を利用される馴染みの利用者との交流、地域ボランティアの方々との交流が継続できるようにしている。	地元の知人や友人がフェンス越しに声をかけたり、ホームにも気軽に遊びに来ている。馴染みの和菓子屋の饅頭を買いに行ったり、ホームに配達に来る米屋や八百屋も昔ながらの関係である。地域ボランティアの人達とも継続的に交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の配慮は基より、体調不良者への心遣い、散歩時にお互いに手をつなごうとされる様子、声を掛け合い協働作業を行ったり、心安い方同士が居室で話している。時々廊下まで笑い声が聞こえている。より良い関係作りや自主的に支えあう様子を見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の連絡調整、情報提供、相談援助を行いながら、退所先でも円滑に支援が受けられるように助言支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向を反映出来るように支援内容を考慮している。見出した情報はフェイスシートなどを利用し、職員が共有できる様にしている。	利用者との会話や、仕草・表情から意向や希望を、把握し、職員間で共有している。個々の思いを受け止めながら、利用者が安心して生活できるよう、ケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族友人からの情報提供に努めている。得られた情報は、フェイスシートなどを利用し職員が共有できる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察により、利用者の様子を把握し、気づいたことは申し送り、記録に残す。必要に応じて会議の議題に上げ、職員間で統一した支援ができる様に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて専門職の意見収集を行い、チーム間ケアカンファレンスの実施、普段の利用者の声、家族の意見を基に個人のニーズに添った援助計画を作成している。	介護計画は、担当職員の気づきや意見を収集して作成している。さらに、かかりつけ医・ケアマネジャー・家族など、関係者の意見・要望も加え、定期的な見直しを行い、状態の変化に応じ、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアプランに添った記録を残し、モニタリング評価表にて実践されたことについて検討し、次回の支援計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の福祉施設内の機能を活かし、行事参加、設備の共有がいつでも可能である。利用者同士も行き来している。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定着したボランティアとの交流、地元の友人の訪問、幼稚園との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力により、希望時は外来受診を行っている。事情により外来受診ができない場合は、職員の同行や併設の施設内の往診を利用し、十分な連携体制をとっている。	受診は基本的に家族が行い、以前からのかかりつけ医に通院している。希望者は、ホーム協力医の往診を選択している。家族が通院同行する場合は、投薬などの医療情報を提供し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師との連携を図り、対応を行っている。受診、往診時には、状況をサマリーにして報告したり、実際に立会いし指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の担当ソーシャルワーカー、主治医、看護師と連携をとっている。度々面会を行い状況を把握するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の意思確認に努め、主治医、施設長、生活相談員を交えて、今後の対応方向性について相談をおこなっている。	医療行為が必要になった時は、同法人内の他施設への移住を勧めている。重度化に伴い、関係者と段階的に話し合いを重ね、利用者にとって一番より良い方法を選択できるよう、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署主催の救命救急講習に参加、AED講習を受けている。消防訓練は年2回、緊急通報訓練は毎月実施されている。利用者の急変、事故発生時の対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。毎月、緊急連絡網を実施し、緊急時の対応に対する意識を高めている。	防災訓練を年に2回行い、夜間を想定したり、職員の緊急連絡網に要する時間の測定なども行っている。食料を始め、飲料水や必需品などを備蓄している。運営推進会議により、緊急時に住民から協力が得られる体制ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人「個人情報管理規程」に沿う説明を実施、同意の場合、家族から同意書に署名、捺印を頂いている。日常的には、利用者の尊厳や羞恥心、個人情報の管理について十分配慮し、実践している。	一人ひとりの自主性を尊重し、誇りを損ねない言葉かけに配慮している。トイレや入浴では、羞恥心に十分配慮し実践している。その人の大切な物や好きなこと、得意なことを引き出すように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個別支援、残存機能の維持、発見に努め、自己決定できる機会を見出すことができるよう関わりを持っている。出来る限り本人の希望に添うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の様子を常に観察する中から、行動の裏づけを理解するように努め、個々の生活のペースを確立できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人が準備し、入浴、更衣される。できない方は、職員が付き添い一緒に行く。化粧品、身だしなみに必要な品は、在宅からの馴染みの物や家族からの差し入れで備えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の栄養士が栄養管理を行い、献立を提供、地元の業者により食材配給を行っている。利用者の希望、提案を生かし季節に応じた献立を実施するときがある。食事に関連した活動に利用者が常に参加できるように声かけ、関わっている。	3食のうち2食は、利用者に手伝ってもらい、ホームで作っている。週に1回、選択メニューの日があり、利用者の好みで選ぶことができる。利用者が自主的に、配膳・盛り付け・食器洗いなどを行い、和気あいあいとした雰囲気の中で、食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認、食事、おやつ時の水分確保、体重管理を行っている。完食される方、少食の方と個々に差があるが、個人の状況に応じた見守りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じて口腔ケアを行っている。自立のため、自己管理できる方も、確認を行っている。		

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを尊重し、介助の必要な方は、羞恥心に配慮しながらその都度対応している。活動の前後にトイレを利用していただくよう声かけし、排泄の失敗を防ぐ機会も作っている。本人が安心して過ごせるよう、気持ちよく過ごせるような状況を検討し、家族と相談を行っている。	職員のごまめな誘導や声かけにより、ほぼ全員が自力で排泄している。退院後や利用者の状態変化時には、排泄のチェックを行い、状況にあった対応をしている。また、日中は、布パンツを使用するなど、おむつの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔には個人差があり、本人の様子、健康状態を把握、観察を行っている。食事、運動など、本人の状況に合わせて、毎日働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に応じて、毎日か一日おきの夕方から夜間に入浴を行っている。自然な動きを促し自己にて入浴できるように見守りを行っている。個々のペースに併せてゆっくり、ゆったり入浴されるように配慮している。日頃からスキンケアを心掛けている。	利用者は、入浴の大好きな人ばかりで、ゆったりと入浴できるよう、支援している。入浴は、隔日であるが、毎日の入浴やシャワー浴も可能としている。肌の保湿にも気を使い、風呂上がりには、入念なスキンケアを行い、乾燥肌のかゆみも解消している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は家族の協力により持参していただいた写真や物品があり、安心して過ごされる空間である。他者とはなれて一人静かに過ごされている時もあり、休みたい時に休まれている。職員は様子を見守り援助していくように心掛けている。夜間はなじみの寝具で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理簿を個々に作成し確認できるようにしている。往診受診時、看護記録に状況を記載し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体能力に応じて、生活歴や好みを理解し日々の中で役割作りをしている。ゆっくり穏やかに過ごされる普段の生活を大切にしながらも、季節に応じた体験型の行事を行っている。当日までの準備を楽しみにしながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の神社までの散歩は日課になっている。天気や体調に配慮しながら、ホーム外に出かけて他者との交流ができるように努めている。家族の協力で外出を行うことができている。	本人の希望や体調・天候に合わせ、近隣の散歩や図書館・郷土館などに足を運んでいる。法人のバスで、花フェスタなど少し遠方の外出、季節の花見や、地域サロンへの参加など、交流と気晴らしを兼ねた外出支援を行っている。	

岐阜県 さわやかグループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額を個人別に家族から預かり、希望に応じて美容院や買い物時に使うことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは、その都度対応している。家族、友人と手紙の交流を行っている。いつも来ていただいているボランティアと季節の手紙の投函をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の念仏に使った仏花を居間や居室に供えたり、季節の花、観葉植物を飾っている。朝日、午後からの日差しを感じながら、時間によって過ごされる場所が異なっている。そこに椅子を置き、一人でまたは気の合った人同士が過ごされている。季節や日付がわかるように工夫している。	共用空間である居間は、天然木が使われ、自然光が差し込み、換気もよく、テーブルやソファが配置されている。廊下には、居室へ続く手すりが設置され、廊下の端には、利用者が日光浴を兼ねて談笑して過ごせるよう、ベンチや椅子が置かれており、自分の過ごしたい場所で、のんびりとくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には一日の時間が日差しや明るさによって感じられ、所々に椅子を設置している。心安い人同士で話し込んだり、1人で新聞を読んだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には家族から提供された物品や写真、家具が設置されている。面会時には個室で過ごされるので本人や家族の意向で部屋作りが行われている。	本人の使い慣れたタンス等の家具が置かれ、家族や孫の写真、自分の作品や手作りの置物が飾られている。持ち込んだものを使いやすく配置し、安心して過ごせるよう工夫された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、廊下には手すりが設置されている。東西南北に設備が明確に設置されているため認識しやすい。思い思いの場所に自然に動くことができる。		